

園長のちよとよい話

20年前すくすくワールド設立

零歳からのバイリンガル

人間の骨格は五歳までに形成



園長 石井篤子

2004年2月NHK教育テレビ番組「サイエンスZERO」が取材に訪れ “脳科学を教育にいかに” のテーマで放映されました。当時は “零歳からのバイリンガル” はほとんどなく多くの取材を受けました。この時代では早い取組だったようですね

Q 保育に 英語を入れているのはなぜですか？

日本の赤ちゃんは毎日聞いている日本語に慣れやがて日本語をしゃべるようになります。しかし一方で、日本語的でない母音や子音の知覚能力を失ってしまうと言われています。それならば、乳児期から、英語と日本語のある環境を与えることが重要なのでは、と考えるようになりました。教育とか訓練という考えを開放して「馴染む」という方向性を打ち出しています。それは、子供たちが日本語を身に着けていく、それと同時に進行して、英語に「馴染んでいける環境」を整えていくことです。同時に、その話し手の文化も触れ合う中で自然に感じられる環境が必要と考えているからです。そうすることで、成長とともに、異文化や言語に対する抵抗感もなく受け入れていける人間になると考えています。

A B C

Q 他にどんなカリキュラムがありますか？

子供達には、本物の環境を整えていき、その中から、自ら好きなものを見つけていってほしいと願っています。そういうものが沢山ある方が、将来の人生が豊かになると思います。特別な外部の専門講師によるリトミック(有資格者)音楽遊び(プロのマリンバ奏者)サプライズアート(区立美術館ワークショップ講師)華道(草月流師範)クッキング(栄養士・調理師)などのカリキュラムがあります。

Q 幼児期の子どもに、どうやっていろいろなことを教えていくのですか？

「想像力の源は模倣である」と言われています。模倣をし、そこから学習していきます。学習には「手本」が必要です。それも本物の手本が必要です。ですから私は保育士をはじめ、子供たちに与える環境をその道のプロ(本物の環境)にお願いしています。それぞれのプロの方が、その環境からいろいろなことを吸収し、得意なことなどを保育士と一緒に見つけ、伸ばしていこうと思っ



Q 0才からいろいろな活動に参加できるんですか？

言葉がしゃべれない子がしゃべれるようになる。歩けない子が歩けるようになる。ハサミを使えない子が使えるようになる。等一通りのことができるようになるのがおよそ5歳と言われています。それまでの関りが大切なんです。学習の出発点は模倣からです。その力は乳児期から始まっています。

Q 職員は、英語ができますか？

保育士の中には留学・海外での生活などの経験により、英語の堪能な職員もいます。外国人の先生とのコミュニケーションは、スタッフ全員問題ありません。外国人の先生も自分の役割を理解して、真剣に子供たちと関わっています。

Q 英語の先生の役割は？

叱るとき、褒めるとき、遊ぶときなど、すべて英語だけで関ります。言葉が難しくても、その時の先生の表情などで、何を言われたかを感じ取ります。それを正しい表現(言語)で伝える伝え方をイングリッシュレッスン・ABCレッスンで学びます。大切なことは子どもが間違えてもたとえ日本語を使っても、決して否定をしない事です。それは伝えようとする気持ちと姿勢が何よりも大事だからです。

すくすくワールドの原点は、現在も運営している『英会話教室』です。当時習いに来る生徒さんの中で小学生が一番小さかったのも、もう日本語脳になっていました。すでに英語を使うことに抵抗感を持つ年令です。それならば0歳からということ、で「0発進」という看板を掲げ、そして少しでも長い時間その環境で過ごし、同時に文化も体験出来たら「ベスト」と思い、すくすくワールドを開園しました。

